

# イプシロンロケットの開発状況

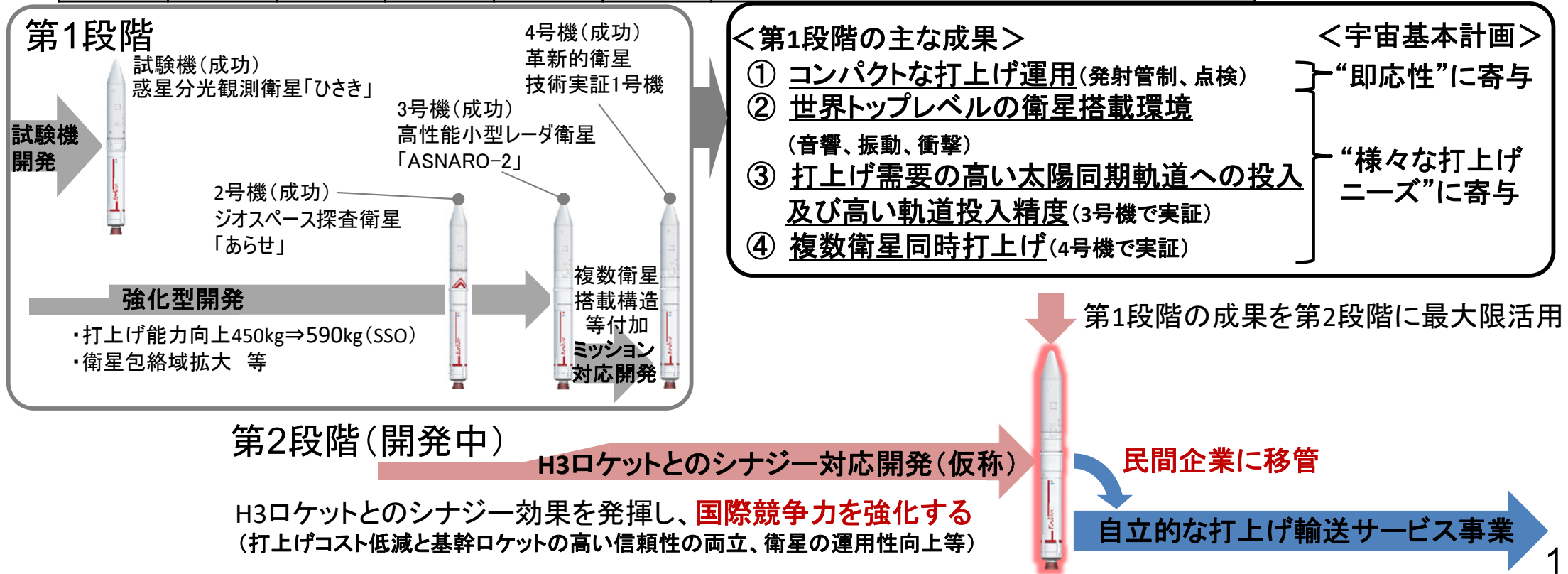
令和元(2019)年11月5日  
宇宙航空研究開発機構

理事 布野 泰広  
宇宙輸送技術部門事業推進部長 佐藤 寿晃

# イプシロンロケット 開発状況

- 小型衛星打上げ手段早期獲得、固体ロケット空白期間極小化のため2段階開発
  - 第1段階: M-V及びH-IIAで培った技術を最大限活用し、4号機までの打上げに成功
  - 第2段階: H3ロケットとのシナジー効果を発揮して**国際競争力を強化する開発を実施中**
- 今後、JAXAは長年培った固体燃料ロケット技術を**民間企業に移管し、民間企業の自立的な打上げ輸送サービス事業展開を支え、日本の宇宙産業の規模拡大に貢献していく。**

FY2013	FY2014	FY2015	FY2016	FY2017	FY2018	FY2019 ~
--------	--------	--------	--------	--------	--------	----------

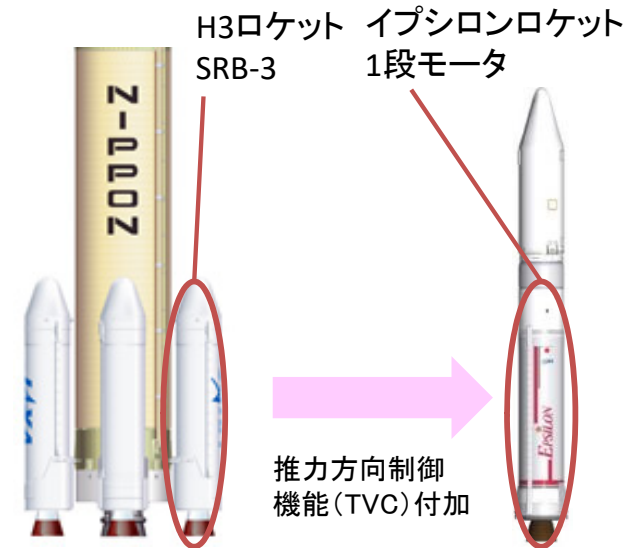


# イプシロンロケット 開発状況

## <H3ロケットとのシナジー対応開発(仮称)の状況>

### ■ シナジー効果: H3ロケットからイプシロンロケットへの適用

1段モータにH3ロケットの固体ロケットブースタ(SRB-3)を適用し、H3ロケットのSRB-3地上燃焼試験の機会を利用して効率的に開発を実施中(イプシロン固有の推力方向制御機能(TVC)等)



- 現在、ロケットシステム開発とイプシロンロケットを用いた打上げ輸送サービス事業を担う民間企業として技術提案要請(RFP)にて“株式会社IHIエアロスペース”を選定し、総合システムを定義する準備として設計検討を進めているところ。
- 今後、総合システムを定義してプロジェクトに移行する予定。プロジェクト移行後のロケットシステム開発では、民間企業が自立的に打上げ輸送サービス事業を展開できるよう、民間企業に主体性を持たせた開発を実施する計画。
- 宇宙基本計画の通り、H-IIA/Bロケットの運用を終えるまでに本開発を完了させ、イプシロンロケットを切れ目なく運用できるように推進する。

# 【参考】基幹ロケットの取り組み

第46回宇宙産業・科学技術基盤部会  
(本年4月24日)資料3-1より抜粋

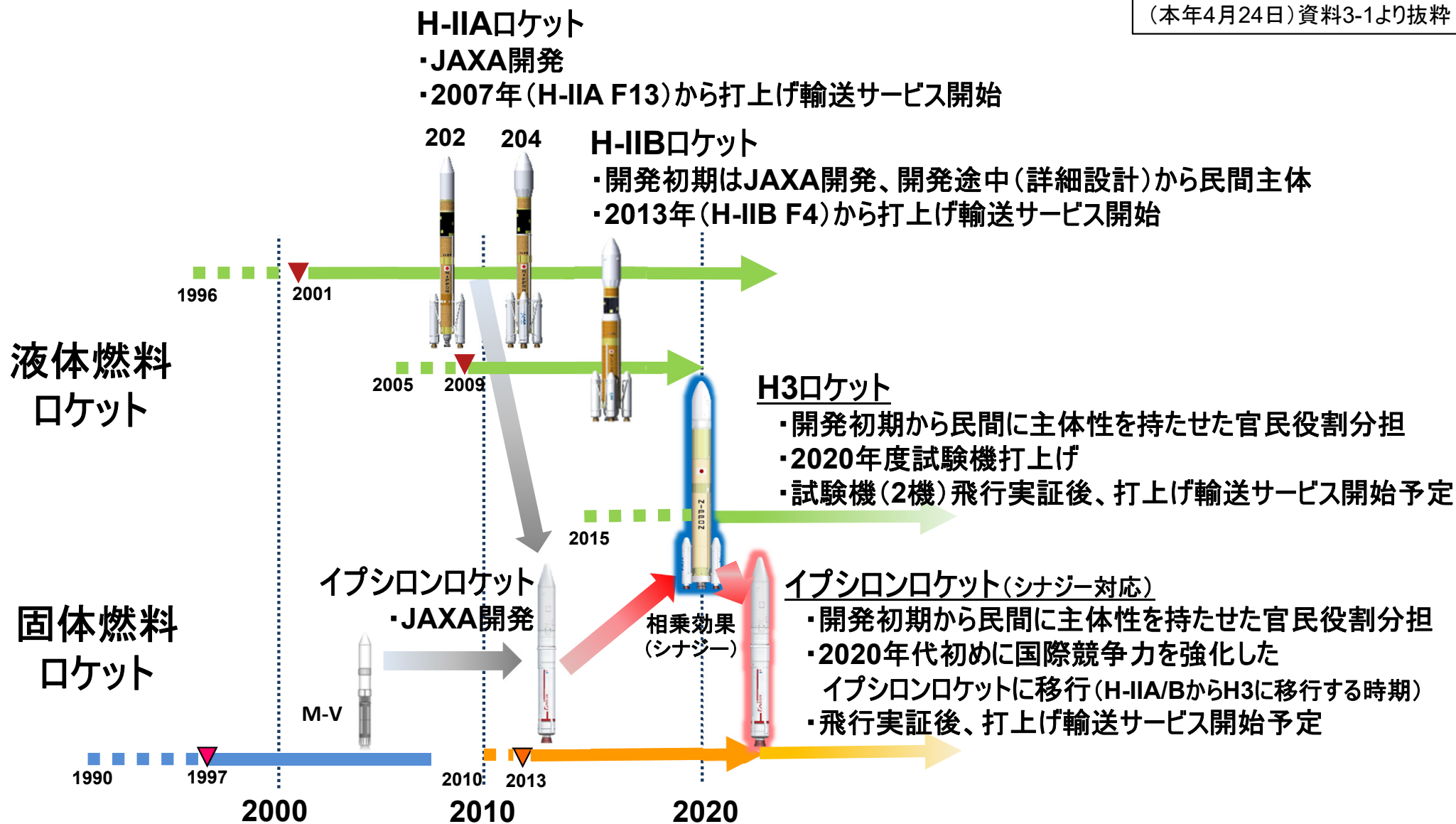


図 基幹ロケットの取り組み

■ : 開発期間  
■ : 打上げ運用